

7.27 (日) **日本の植民地主義を問う**

日本軍《慰安婦》問題 の解決とは何か

お話

(大阪歴史教育者協議会常任委員、中学校教諭)

平井美津子

(ひらい・みつこ)

さん



1938年、南京に開設された慰安所に群がる日本兵。(日支事変上海派遣軍司令部記念写真帳より)

7月27日 (日)

13:30開場～14:00開始～16:30

於：国労大阪会館・3F大集会室

※JR天満・地下鉄扇町（裏面地図）

資料代：800円（学生半額）



主催:南京の記憶をつなぐ2025 Tel090-8125-1757

「南京の記憶をつなぐ2025」7月集会にご参加願います。

日本軍《慰安婦》問題の解決とは何か

お話 平井美津子さん

(ひらい・みつこさんプロフィール：大阪市生まれ。大阪府公立中学校教諭、大阪大学・立命館大学非常勤講師。歴史教育者協議会会員、子どもと教科書大阪ネット21事務局長。専門研究は、アジア太平洋戦争下における日本軍「慰安婦」、沖縄戦研究。著書に、『「慰安婦」問題を子どもにどう教えるか』(高文研)、『戦争孤児たちの戦後史』第一巻、第二巻(編著、吉川弘文館)、『植民地化・脱植民地化の比較史』(共著、藤原書店)、など多数。最新刊は、『近現代史を子どもにどう教えるか』(共著、高文研))



「戦後80年 植民地責任を問う」

近代、日本は欧米にならって台湾・朝鮮半島を植民地とし、それは日本の敗戦まで続きました。では、敗戦とともに日本は植民地主義を克服できたかという、残念ながら戦後80年にもなる現在においても、いまだ私たちが植民地主義を克服したとはいえない状況にあることは、多くの方が感じておられることではないでしょうか。

現在においても、わたしたち市民社会で日本と朝鮮半島の歴史、特に「慰安婦」問題は正しく理解されているとはいえない状況が残念ながらあります。

そこには教育の問題があります。教科書において「慰安婦」がどのように記述されてきたか、そして、その記述の変遷の背景には何があったのかについてお話ししたいと思います。

1993年8月、歴史研究・教育を通じて「慰安婦」問題を長く記憶するという日本政府の約束を込めた河野談話が公表され、高校教科書には1994年から、中学校教科書には1997年から関連の記述が掲載され始めました。ところが、それは「自虐史観」を教えることになるという一部勢力の圧力によって、昨年2024年の検定では、「従軍慰安婦」という表現は削除されていました。

「慰安婦」という日本の植民地時代に起こった歴史問題を授業で取り上げることによって、そもそもそれが教科書に登場した背景には何があるのだろうか、教科書から記述が消えていくのはなぜなのだろうか、その時々、その社会の背景とともに考えてきました。いま、戦争の危機が至るところで叫ばれています。二度と子どもたちを戦争に巻き込まないためにも、私たちが植民地主義を克服して、平和を目指す営みをどのように作ることができるか、ともに考えてみたいと思います。

賛同団体、賛同人になってください！

■賛同団体：南京の映画をみる会しが、日中平和研究会、日本中国友好協会大阪府連合会、「週刊金曜日」読者の会・大阪、グループZAZA、大阪教育合同労働組合、教職員なかまユニオン、銘心会南京、関西共同行動

■賛同人：岡田光司、古賀滋、島田潤、田中泉、長崎由美子、中沢浩二、古橋雅夫、森田徹、山田光一、藤井幸之助
(2025年6月現在)

連絡先：南京の記憶をつなぐ2025

Tel 090-8125-1757

■会場：国労大阪会館 地図

(3Fまでの階段昇降機の設備があります)

